

平成27年度 第4回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成27年12月25日(金) 午後3:00～5:00

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 清水岩夫
委員 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員
教育部長 丸山 信一
子ども育成課長 常田 新司
学校教育係長 丸山 真央
学校教育係 高橋 健一

5 会議の経過及び発言

1 開 会

2 あいさつ

(足立市長)

年の瀬もいよいよ迫ったわけですが、お忙しいところ、第4回の総合教育会議ということでお集まりいただきありがとうございます。教育大綱の策定についてということで、既に何回か会議を重ねていただいております。今日は最後のまとめということでお願いしたいと考えております。飯山市の教育の中心となりますのでそれぞれご意見を出していただきましていいものができるようお願い申し上げてあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議 題

1) 教育大綱(教育振興基本計画)の策定について

議題について、資料1ページから7ページを事務局子ども育成課長より一括説明。

(長瀬教育長)

これを踏まえ、新年度の予算でも検討しています。実現したい目標に一步でも近づけるように配慮しながらやっていく予定です。12月議会では、小学校中学校適正規模に関連して、小規模校

で実績があがっているのかといった質問や小中一貫校についての質問もありました。現状及び今後の見通しについては私の方から説明をしてあります。この教育大綱にはその項目についても触れておりますので、これから検討していく形になると思います。清水先生、小学校の「年間105冊以上」というのは先生の経験からみてどうでしょうか。中学校も「25冊以上」となっております。

（清水職務代理）

実態はともかく、多ければ多いほどいいのですが、数値で出てくるとその数値が独り歩きするような感じするのですが、図書館の利用促進に繋がるための環境整備を考えていかないといけないと思います。

（長瀬教育長）

各小中学校の司書教諭からの話ですと、図書カードで管理しているのが非効率的だと言われております。この管理方法については、電子化に向けた予算措置の検討をしています。これが実現すれば司書教諭は読書指導がしやすくなると思います。

（清水職務代理）

学力や体力向上というのは、全国平均といったしっかりとした目標があるので、この数値目標はわかりやすくいいのですが、何か抽象的な部分があるような気がしています。ただ、今まで議論してきて大筋ではこの目標設定でいいと思っています。一つだけ細かいことが気になってます。それは、2ページの「教育大綱策定の趣旨」の下から4行目、「子どもを…」とあります。その下には「子ども達…」とあります。ここでは両方あるのですが、4ページに行くと「子ども達…」が出てきて、また「子どもが…」とあったりします。他にもあるようで、この表現は統一してもいいかなと思います。「子ども」という表現は一人を指している単語ではないと思いますので、一般的には「子ども」でいいのではないかと思います。内容に関わる部分ではありませんが。

（長瀬教育長）

読んでみて、細かい語句の修正があればまたお教えいただき、修正は事務局に任せていただければと思います。

（足立市長）

読書量、小学校は「105冊」。これ、今はどのくらいですか。

（常田子ども育成課長）

現在は、平均すると70冊ほどになります。中学校は10数冊になります。小学校は朝読書といった取り組みもありますので多いのですが、中学校では個人の本を持ち込んだりもするので少ないデータとなっています。全く読んでいないという生徒もおります。

（足立市長）

他にどうでしょうか。樋口さんどうですか。

（樋口委員）

先ほど清水先生が言われたとおり、基本的にはこの内容でいいと思います。以前までで私も言わせていただいておりますが、この大綱を市民として共有できるかということだと思います。読書もそうですが、105冊という目標があって、家庭でも読書をしようというふうに親もすれば子どもも向かっていくのではないかと思います。子どもたちだけにやらせるのではなく、地域全体として取り組んでいくように方向づけすることがいいと思います。個人的には、この大綱を掲げた後に、地区懇談会のようなものを開催し、保護者や地域の方々にこの大綱についての意見をお聞きしてみんなで共有していくことが大切だと思います。もう一つは、具体的な施策がありますので、この施策が現場ではどういうふうに行われていて、それを検証していくことが必要だと思っています。

（常田子ども育成課長）

進行管理については進めていかなければならないと思います。

（足立市長）

進行管理はいいのですが、内容がたくさんあるので、達成するためには実施計画書みたいなものが必要になると思います。そのところは、大綱策定の次の段階になるので、この大綱だけでは進行管理はできないんじゃないかと。

（長瀬教育長）

各学校では、毎年教育計画（グランドデザイン）を立てているので、今までと違い、具体的な数値が出てきたのでやりやすい部分も出てくると思います。市長が懸念されている進行管理等は、今まで以上にできるのではないかと考えています。

（足立市長）

授業に関する部分については学校現場に伝えていって、具体的にどういふことをするか等は校長会などを通じて学校ごとに検討してもらおうという仕組みにしないといけないと思います。強制はできませんが。

もう一つ、清水委員さんがおっしゃったような「家庭での部分」について、どうすべきか考えないといけないですね。一つは生活習慣の問題。基本的な生活習慣については学校と連携しながら検討できるんですが、「家庭学習の習慣化」というのが一番厄介かなと思います。

（樋口委員）

例えば学力で言うと、極端な話ですが、「あなたのお子さんは今、このレベルです」というようなこともきちっと親に説明するべきだと思います。言い方が悪いようですが、小学校の通知表はほとんど「◎」で何が悪いのか全然わからない。逆に言うと「◎」じゃない方がおかしいくらいです。テストについても、相対的に簡単なテストが多いので、そのテストで100点取れたからといってできるわけではない。言い方は悪いが、自分が希望する道に進むためには、いず

れ全国の人と戦うことになるかもしれない。そこが全てではないですが、今のレベルが分からないと子どもが本当に勉強ができていいのかできていないのかわからない。読書についても、読書してどうなるのかというのを親がちゃんと理解していないと進めようがないと思います。私が小学校に子どもがいた時にも全然情報が足りないと思いました。人に言われて、これはいけないと初めて気付いた時がありました。

（足立市長）

昔は学期末になるとテストを袋にまとめて持ち帰るなんてことがありました。今はそんなことはないのですか。

（樋口委員）

まとめて持って帰ってくることは聞きます。ですが、そのテストのレベルがどんなレベルなのかは全く分かりません。そのテストで100点や90点取れているからうちの子はできるんだというのはとんでもない話です。そういうことも含めて、「全国的にはこのぐらいの学習時間をやっています」ということも示して、そうしないと後々こうなりますといったことも学校から親に説明してもらいたいと思っています。今は忙しくて、なかなかお子さんと接している時間がない親御さんもいますので。

（足立市長）

それについては皆さんどうでしょうか。現場にいらした校長先生方もいらっしゃいますので。

（清水職務代理）

基本的に小学校の評価は、評価そのものの在り方が学習することにねらいがあつて、そのねらいに子どもがどのくらい到達できたかという、「絶対評価」を行っています。それは全国的な傾向ですし、文科省でもそうになっています。基本的に周囲と比べる「相対評価」を行ってはいません。中学校になれば、「絶対評価」に「相対評価」も入ってきます。

（長瀬教育長）

小学校の場合、評価の書き方によっては、すぐに保護者から意見があります。ですので、できるだけ柔らかい表現になるように書いています。

（足立市長）

その意見は、評価に対しての意見なのですか。それとも、学校で落ち着きがあるように教育してないよ、という趣旨の意見なんでしょうか。

（長瀬教育長）

そういう論法できます。第一義的なしつけは家できちんとするべきだと思っておりますが、それをやっていないにもかかわらず、教師がはっきり指摘すると、それに対する意見が来ます。この面では、現場の先生は非常にやりにくい部分だと思っています。

(田中委員)

樋口さんがおっしゃることもとてもよくわかるのですが、理解力のある子どもさんや、自分の子どもに対する指導力のある家庭においてはストレートにお伝えしてもそれなりに受け止めていただけるのですが、中にはそうでない家庭もあります。ストレートにお話することで、かえってマイナス効果になってしまうこともあります。そうすると本来指導すべきことがよく伝わらなくなってしまうことがあると思います。

(清水職務代理)

ただ、樋口さんがおっしゃるように正直に伝えることは、本当はしなきゃいけないことだと思います。言い方にはさじ加減があるのですが。

(足立市長)

一応、目標は小学校6年生と中学校3年生の設定なので、小学校の高学年くらいになったときには樋口さんから話があったような点が指導できるような体制に、低学年の時から準備していけるような形にしていければと思います。そうしないと6年生の時にこの目標をなかなかクリアできないのではないか。義務教育9年間の段階的な流れの中で目標設定に向かっていければいいのではないかと思います。

(長瀬教育長)

今までは、調査等を見ると家での学習の習慣化等で弱い部分があるように思います。新年度からは、家庭教育のあるべき姿などをもう少し訴えていかなければいけない時期にきているのではないかと思います。教育委員会の中ではそういった話が出ております。学習状況調査等を市の広報などで具体的な数字を示していけないといけないかなと思います。

(足立市長)

やっぱり学校教育の役割というのを考えないといけないですね。今の日本があるのはやはり学校教育が良いからだと思います。単に勉強を教えるというわけではなく、日本の社会を形成していくうえでとても重要な役割だと思っています。時代の変化により家庭の状況も様々だと思いますが、義務教育の根幹はこうあるべきだ、そして家庭でもこう育成していくんだ、というスタンスを明確に持って取り組んでいく必要があるのではないかと私は思います。そのために、大綱の中でそういうものを打ち出していくべきではないかと私は思います。当然、いろいろな課題はあるかと思いますが。大綱で目指すべき方向を示していければと思っています。

(清水職務代理)

私も同じ意見です。大綱方向が示せばいいと思います。そのために、少し話がそれるかもしれませんが、例えば、「学力向上推進センター」みたいなもの、これは「ハードを整備する」ということではなく、「機能をもたせる」という意味で、こういうものを作って、研究するようなことができればいいのではないかと思います。先生も異動していく中で、系統的なつながりをつくる意味でいいのではないかと思います。ハード整備ではないので、予算もそれほどかからないのではないかと思います。

(足立市長)

このご意見には私も大賛成です。具体的にどうすれば目標に届くのかということを少し事務局と話した際に、雑談の中で、問題集というか、プログラム等を作ったらどうかという話が出ました。先生方に集まっていただくのであれば予算はそれほどかからないと思うし、かかるとしても市で支援していったらいいと思うのですが、そういう組織ではデータが蓄積していきますので年数を経つにつれより良いものが出来ると思います。そんな組織をぜひこの大綱の中で位置づけができれば非常にありがたいと思います。例えば、段階的に学習できるドリルのようなものなどを作ったらどうか。家庭学習というと、「自分でやって解いていく」という訓練が重要なんだと思います。今日教わったことについて自主的に問題集に取り組んでいく。今日教わったことはあくまでも一般的な概念なので。自分で少しずつ分かっていけるようなものが出来ていけばいいなと。

(長瀬教育長)

長野県教育委員会で作った問題集は既にあって、プリントアウトすればいいだけになっているのですが、ただ、それを現場の先生が使っているかどうか。

(清水職務代理)

学年に応じた問題だけのことを言っているのではなくて、例えば、1年生はどこの学校もみんな朝読書をしましょう、2年生になったらどこの学校もこれをやりましょうとか、そういうことが、実は各学校の各担任に任せられていて、市としての具体的なものがなかった。そういうものを含めたプログラムを作る組織があったらいいなと思います。先生たちは異動したりするけど飯山市はこうなんだというものがあればいいと思います。この理念の大きなものが長野市の研修制度であり教育センターの機能なので見習うべきではないかと思っています。

(長瀬教育長)

それでは清水先生、今まで一斉に学校でやろうと言った時にどうしてできなかったんだと思いますか。例えば、朝読書についてもやる学校とやらない学校があって、その違いはどうして出てきてしまうんですか。どうしたら全学校一緒にやってくれるようになると思いますか。

(清水職務代理)

なかなか難しいですね。

(長瀬教育長)

夏休みに3日だけの補習授業のようなものを作ってほしいとお願いしたことがあるが、だめだった。ただ、やっている学校もある。それがわからない。どのようにしたら同じ方向を向いてくれるのか。

(清水職務代理)

大綱はできた、じゃあこういう方向性で行きましょうとなった場合、具体的にどうしていくのか

となるとやはりさっきの教育センターのような機能が重要だと思います。

（足立市長）

義務教育の本来の意味を考えた時、全ての学校で同じ教育をしてもらわないと困りますよね。

（長瀬教育長）

市長のおっしゃる前提は、教員が全員同じ力を持っていて、同じ指導ができるとなれば確かにそうですが、その辺が非常に難しいですね。

（足立市長）

例えば柳沢プログラムだって、保育園の先生方が自主的に話し合う中で、これはとても成果を上げているからぜひやりましょうということでやり始めています。そういうような取組ができればいいのですが、先生方も異動があるので難しいですかね。今回、飯山市としての大きな方向性を打ち出すわけですし、総合教育会議というものが設置されたのでこういうことを話し合うことがいいきっかけになるのではないかと思います。大綱の次の段階、具体的なやり方など、この総合教育会議で落とし込んでいった方がいい気がします。一斉にみんなでやるのが難しいというのであれば、モデル校で実践してみるとか、そういう方法でも良いのではないのでしょうか。その辺りについて、具体的な実践計画みたいなものを作らなければならない。それはこの総合教育会議が中心となって方向性を定めながらやるものだと思います。市の計画でも、計画を作っただけでは現場はできません。例えば新幹線飯山駅を作るとのことだって、要請活動をしたり、地主さんと用地交渉したり、補助金をもらったり、いろんなことをネゴシエーションしながらやっていかなければいけない。そういう部分は市の計画であっても、教育大綱であっても結局は一緒だと思います。

（田中委員）

さっき、教育長がおっしゃられた部分で、この大綱の具体的な目標への取り組み方は各学校へお任せしようということだったと思います。一般の先生方はそれを望んでいる方が多いのではないかと思います。ただ、それだと今までと全く変わらない。かつて小山市長の時代に、「市内の学校全てで米作りをしよう」という活動が始まった。これに関しては、私が飯山市の学校のお世話になっている中で一番、市を挙げて取り組んでいたと思います。ただ、今これが必ずしも全学校で続いてきてはいないことがわかりました。市の方針であったにも関わらずです。これは教育課程や時間数の変更もあるのでやむを得ない部分かもしれませんが、時とともに変わってきてしまう。だからこそ、5年という年月で切って教育大綱ができているわけですから、この5年間の中では足並みを揃えてやっていきたいと思います。今までよりも一歩踏み込んである程度きっちり打ち出してもいいと思います。

（長瀬教育長）

今のお話で、例えば「ふるさと教育」。これはずっと前から学校に言っています。ただ現場では難しい。難しいから、「カリキュラム」を作りました。それでも難しい。だから今年は「正受老人物語」を作り、更にそのカリキュラムまで作って、「こういうふうにやってください、4

時間で」と、ここまでしてやっと今年動きが出てきました。飯山市の小学校は単級が多いので、各学校の先生方が集まって議論するような動きはあります。ですが、そこから一人一人の先生に話が降りて行った場合になかなか難しい。清水先生の言う、「教育センター」のような組織を立ち上げるにしても、教育指導主事をもっと増やすなどしないと現実にはできないですよ。そうすると予算計上していただいて、福井・石川のようにきめ細かくやっていくかどうか。そこまでするかどうかですが。

（足立市長）

やってもいいように思います。教育は大事ですよ。そのぐらいうる価値はあると思います。魅力的な地域となるには教育に力を入れていることが大事ですし、人材育成という観点からも、環境を整えるのはとてもいいんじゃないかと思います。そのぐらいうち出ししてもいいんじゃないかと個人的には思います。現状を維持するために年間1,000万円とか、2,000万円とかお金をつぎ込むのではなく、プラスの部分を中心に引き延ばすためにお金を使いましょうという方向なら応援をしたいと思っています。

校長会などと話をすればまたいろいろ案が出るかもしれません。

（清水職務代理）

やりなさい、というのももちろん大事だが、それだけではいけなくて、議論をしないといけないと思います。

（長瀬教育長）

学力については、常に校長会で話題にしています。

（足立市長）

やはり、目標を立てたのだから、5年間の内でクリアしていくための具体的な方法を考えないと。

（田中委員）

市の計画はだいたい、5年単位で作るじゃないですか。学校現場は1年単位で作っています。複数年にまたがる計画というのはあまりないと思います。学校でこれを具体的にどう進めていくかについては共通理解というか、進め方の検討会議をもたないとまた結局バラバラになってしまうのではないかと。

（足立市長）

学校の場合は、一年間の行事計画が作ってあるんだけど、今田中先生がおっしゃったように、行事の計画はあるのかもしれないが、今年入学した1年生を6年生までにどうやって伸ばしていくのかという目線の長期計画はあまりないかもしれない。そういう観点のものを作ってから単年度を作るような形がとればなあと思います。

（樋口委員）

そうするとやはり、こちら側というか、学校サイドではなくて、ある程度方向を出したらいいの

ではないかと感じます。

(長瀬教育長)

こういうふうに具体的に実現したい姿が出たことで、現場の先生の意識も変わるのではないかと思います。それは間違いないと思います。その後で、樋口委員の言われたように意識を共有できるよう働きかけていければと思います。

(樋口委員)

さっき、市長が言われたような感覚を市民も持っていければやりやすくなると思いますね。

(足立市長)

飯山市は、教育環境とするとすごくいいと思います。自然もあるし、どこかへ行こうと思えばすぐに行けるし。運動もできるのでとてもいい環境だと思います。

(丸山教育部長)

時間的にも、そろそろまとめに入らせていただきたいと思います。事務局としますと、大綱の中身や字句の修正を確認していただいて、市内部や議会で調整をとり、正式なものにしていきたいと思っています。その後ホームページや市報等で公表していく形を取りたいと思います。また、印刷をしてペーパーとして校長会等で配布を考えております。また、今後の調整のやり方以降について事務局で調整していければと思いますが、その形でよろしいかご確認をお願いいたします。

(足立市長)

今、丸山部長から説明があったような形で皆さんよろしいでしょうか。

(一同)

了承。

2) その他

4 その他

5 閉 会

(足立市長)

本日は、最終的に大綱をまとめる第4回目の会議だったわけですが、実践の部分まで踏み込んでいただいていた会議が出来たと思います。この目標を達成できないと大綱の意味がないと思いますので、また頑張れるような方策について次回以降また検討していければと思います。これによって飯山市の教育が改善されていくなればこの会議も有意義なものだと思います。またこれからもお力をお貸しいただき、良い方向へ進むようによろしくをお願いいたします。大変ありがとうございました。